



郷土史

ていね

第 98 号

平成 28 年 2 月 10 日

手稲郷土史研究会会報

第 117 回(平成 28 年 1 月 13 日)定例会・「記念誌刊行祝賀会」開催模様〔要旨〕

## 十周年記念誌「掘り伝える」刊行祝賀会

主催 手稲郷土史研究会

第 117 回定例会 (H.16.1.13) は、立花顕次総務部長の司会により十周年記念誌刊行祝賀会として開催されました。

主催者を代表して挨拶された茂内会長は、私たち手稲郷土史研究会が今年 10 周年を迎えることから、一年前から準備を重ね記念誌を発行するに至った経緯を伝えられました。

本席にご来賓のお三方をお招きしての刊行祝賀会を開催するに当たり、ご多忙の中馳せ参



じて頂いた札幌市手稲区長福田正人様、手稲区連合町内会連絡協議会会長細野邦夫様、札幌市手稲区市民部稲穂金山まちづくりセンター所長田中敦士様への謝意を述べられた。更には昨年 12 月 16 日手稲区役所一階に歴史資料コーナーを開設させて頂き、今年 1 月 7 日新聞報道で紹介され、札幌市民に限らず全道民が「手稲区役所に行けば手稲の歴史が解る」と報じられたことは、大変大きな意義があると強調されておられました。

この後、ご来賓の手稲区長福田正人様、手稲区連協会長細野邦夫様、稲穂金山まちセン所長田中敦士様からお祝いの言葉と当研究会に寄せる期待や励ましの大変心強いお言葉を頂き、身の引き締まる思いで拝聴させて頂き、更なる誓いを新たにしましたところ。続いて小田真二資料部長から「刊行報告」を頂いた後、当会顧問



(前会長)國井和夫様の音頭で開宴の乾杯に移り、酒宴の席では 15 名の執筆者ご本人からの苦勞

話が披露され手稲の歴史談義で刊行を祝っていました。閉宴の乾杯は一ノ宮博昭副会長の音頭で終宴となり 36 名の会員は手稲の街へと吸い込まれていきました。

尚、十周年記念誌「掘り伝える」は茂内会長・立花総務部長・小田資料部長菅原研究部副部長・山本協力員の 5 名が管理保管していますのでいつでもお申し込み下さい。(文責・佐々木)



# 会員の広場

## 当研究会の財務を考える

相談役 鈴木清士

当研究会の発足は平成 17 年 10 月ですが、実際に動き出したのは平成 18 年 4 月からです。当時の会員数は 49 名で、年会費は千円でした。これに区連協からの助成金 5 万円、合わせて 10 万円弱の収入で、会場費や部外講師料などを支払うぎりぎりの台所事情でした。

その後、平成 21 年度に会費を 2 千円に値上げして、今日まで運営されて来ましたが、28 年度からは区連協からの助成金が打ち切りになるとのことで、10 年にも亘って助成いただいた区連協に感謝するとともに、これからの会の運営に支障が出ないかと懸念しているところです。

助成金打ち切り分を補うための手っ取り早い対策は、会費の値上げですが、値上げにより退会する人や、これから入会しようとする人に影響が出ないかと危惧しています。また、当研究会が今後各種の活動を進めるうえで、多くの財源を確保することが必要でないかと思えます。

**については、その財源対策のひとつとして、「老人クラブ活動費助成金」を活用し、財源の確保を図ることを次に提案します。**

当クラブの会員年齢は、殆どが 60 歳を超えており、同好会として老人クラブに登録し、助成を受けることが出来ます。

老人クラブには、「老人福祉法」第 13 条により、国及び地方公共団体から毎年助成金が出ています。

会員 30 名以上 5 万 3 千円、

会員 50 名以上 10 万 6 千円 会員数増に応じて増額

助成を受けるために、会の名称や会則などを変更することなく、助成要件であるボランティア活動については、地域団体などへの出前講座や歴史遺産等への案内などで足りるでしょう。

当会では、見学旅行などで高齢者福祉バスを利用していますが、老人クラブ加入により気兼ねなく活用できます(本来の利用者は老ク、福祉関係)

全国老人クラブ連合会では、現在「会員 100 万人増強運動」を展開しており、その中の一つの柱に「新しい型のクラブをつくろう」という運動があります。地域の高齢者がつくっている文化団体やスポーツ団体、同好会、サークルなどを仲間として迎えようとするものです。現在、全国的に高齢者の同好会やサークルなどは、財源対策の一つとしてこの助成金を活用するところが増加しています。

助成金を受けるための申請事務手続き等については、私がいま、老人クラブの活動に係わっているので、お手伝いできるものと思います。会員の皆さんの中には、老人クラブへの登録に対しては、会の本来目的にそぐわないとか、事務手続きが煩雑になるとかで異論もあろうかと思いますが、当研究会の将来に向けた財源安定化のために、柔軟に対応することも必要ではないかと思っています。

### 次回の予定

次回 (3 月 9 日) は「祖父と篠路歌舞伎」大沼靖男会員発表、および「平成 27 年度を振り返って」事務局報告を予定しております。

会場は視聴覚室です。(3 階)